

献 辞

学長 種村 完司

久木田美枝子先生は、本学の教育・研究・管理運営・社会活動の諸分野で、39年の長きにわたり貢献してくださいました。退職のさいに、公立短期大学協会教育功労者として、文部科学大臣表彰を受けられたのは、ご本人にとってだけでなく、本学にとっても名誉で喜ばしいことでした。先生の軌跡と業績に改めて敬意と感謝を表したいと思います。

名誉教授推薦にさいして提出された、功績調書や業績調書によって、私は遅まきながら先生の研究が、チョムスキーの言語理論にもとづく人間の言語の普遍性・生得性の探究、言語獲得と脳科学との関係の解明、内在的な言語獲得過程を経た言語能力を育成しうる英語科教育法の確立、等々に向かっていたことを知りました。哲学を専門とする私も、認識論や心身論を研究テーマにした時期があり、人間の知識や観念のもつ先天性と後天性の問題、言語や論理と現代脳神経科学の知見との関連は、今でも重大な関心事となっています。先生の在職中に研究・教育面でもっと自由に語り合えばよかった、と反省しきりです。

これまでの「人文学会報」を読むと、先生が、英語英文学の学生たちに、自分の研究にもとづいた英語教育をいかに粘りづよく熱心実践されていたかがわかります。先生が研究と教育を分離する（私自身は陥りがちでした）のではなく、両者の統合をめざし自らの研究成果に依拠して学生たちに最善の教育を施そうとされていたことに感心します。

管理運営面でも、先生は誠実に職務をはたされました。とくに印象的だったのは、いくつかの採用人事や昇任人事で選考委員長や主査を務められたとき、候補者の業績をじつに真摯に紹介され説明されたことです。教授会メンバーからの多様な質問にも、丁寧すぎるほどの態度で応答されていました。ウラ・オモテのないこと、他者と謙虚かつ正直に向き合うこと、それが先生の性格でした。

数年前、体調を崩されて弱気になったこともおありだったようです。しかも、ご夫君が急な疾患でやや不自由な身になられ、今後の日常生活で長期にわたる配偶者のサポートが必要だと聞いています。また、先生ご自身は、今後は言語獲得の応用面での研究をすすめたいと書いておられます。ご夫婦の健康と活躍はむろんのこと、久木田先生ご自身の研究の発展と先生のご長寿を心から祈念してやみません。